

医療法人喬成会

石狩ふれあい・ほっと館介護センター通所介護事業所

岸上 明裕 (作業療法士 / 通所介護管理者)

功 績 石狩ふれあい・ほっと館通所介護事業所内のインシデント集計及び共有をITを活用し、介護の質の向上も果たした功績。

推 薦 者 平野 里実 (保健師 / 在宅事業部統括センター長)

推 薦 理 由 通所介護事業所の岸上所長は、業務の質の向上と安全管理において先進的な取組を継続し、目覚ましい成果を挙げています。上記にあげたインシデントの管理だけでなく、自分で勤務表作成を自動で行えるプログラムを組むなど、業務改善を常に意識して業務に当たっています。

個人の努力にとどまらず、事業所全体の安全文化の醸成に寄与しており、評価されるべきものと考え、理事長賞の候補として強く推薦いたします。

内 容

今年度より介護系のインシデントレポートは本部主導でGoogleスプレッドシート管理となりましたが、岸上は2022年12月より独自にLineWorksのテンプレートを作成し、デジタル情報での集計を行うようになり、2024年4月より独自にスプレッドシートを作成し、通所介護事業所のインシデントをまとめていました。

当初はスタッフが紙に書いたものを自分で入力してデジタル化しておりましたが、2024年度にはスタッフへの教育も進み、自分達でスプレッドシートに直接入力できる環境を整えました。

その後、デジタル化されたデータを月ごとに集計し、LineWorksでの情報共有を行っており、実際Level0インシデントが3件/月から40件/月に増加していることより、職員のインシデントに関する意識の向上が図れたことは明白であり、今後も増加が見込まれます。

逆に、Level1以上のインシデントは3.6件/月から5.8件に増加しておりますが、職員のインシデントに関する意識が向上したことにより、報告件数が多くなったと考え、クリニカルアウトカムの改善に著しい貢献をしています。

LineWorksを上手く活用して情報共有を円滑に行い、特に職員に対する教育や意識の統一にも効果を発揮しており、デジタルツールを駆使した業務改革の好例となっています。

今後もこのような取組みを継続させるべく、現在はマニュアルや運営指導時に必要な書類等をクラウド管理し、すぐに取り出せる環境を作成しています。

PC、ITの知識と技術が無いと属人的な管理となってしまうそうですが、形になっている部分についてはスタッフとアカウント共有し、開放していることより、一つの仕組みとして取り組んでいます。